

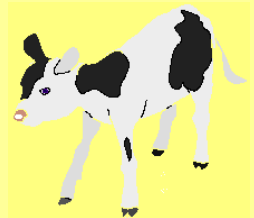


# 県南家畜衛生情報

2010  
第 44 号  
平成 22 年 10 月 1 日

## 今月の主な内容

- 岩手県内の広範囲でアカバネウィルスの感染を確認!!
- 24ヶ月齢以上の死亡牛における牛海綿状脳症（BSE）検査について
- 冬期における牛の飼養管理
- 鳥インフルエンザの侵入防止対策は万全ですか？  
～いま一度、基本を見直しましょう～
- 平成 22 年度採用職員の紹介



## 岩手県内の広範囲でアカバネウィルスの感染を確認 !!

### 1 アカバネ病とは？

- ★ アカバネウィルスの感染で起こる牛、めん羊、山羊の病気です。
- ★ この病気は、ウイルスが蚊の一種であるヌカカの媒介で夏から秋にかけて、妊娠牛に感染して、異常産（流・早・死産や奇形子牛の分娩）を引き起こします。
- ★ 異常産は、その年の冬から翌年の春にかけて発生します。

2 平成 22 年 8 月に、管内で抗体陽性牛が確認され、本県へのアカバネウィルスの浸潤が確認されました。

そこで、県内の本病の浸潤状況を把握するために、緊急調査を実施しました。抗体検査の結果、表のとおり県南及び中央家保管内で抗体陽性牛が確認されたことから、県内の広範囲でアカバネウィルスの感染が起こっているものと考えられます。

家保別	調査市町村数	陽性市町村数	検査戸数	陽性戸数
県南	8	5	16	5
中央	8	5	10	5
県北	7	0	10	0
合計	23	10	36	10

### 3 県南家保管内でアカバネ病の発生を確認。

9月になって、2戸2頭の流産胎子・異常産子牛の脳からアカバネウィルス遺伝子が検出されました。

#### 4 過去の本県のアカバネ病発生状況

昭和 52 年に県南地域で、172 頭の発生。3 年後の昭和 55 年には県央地域で 56 頭の発生が確認され、大流行があった昭和 60 年から 61 年の際には、6,500 頭を超える異常産子牛が発生しました。その年大発生時には 9 月から 11 月にかけて流産が相次ぎ、12 月から翌年の 5 月頃にかけて大脳欠損や体型異常（関節わん曲等）の子牛が生まれ、被害額は 8 億 3 千万円に達しました。

#### 5 又カカが発生する 10 月中旬まで、又カカの防除を徹底しましょう。

- ★ 畜舎周辺から、又カカの発生場所となる水たまり、雑草等の茂みをなくすこと。
- ★ 殺虫剤や忌避剤を利用する。

#### 6 アカバネ病を疑う症状を見つけたら？

異常産（流・早・死産・子牛の関節わん曲などの体型異常）など、アカバネ病を疑う症状を発見したら、診療獣医師や県南家畜保健衛生所まで連絡をお願いします。

## 24 ヶ月齢以上の死亡牛における 牛海綿状脳症（BSE）検査について

平成 13 年 9 月 21 日に国内初の B S E 患畜の発生を受け、と畜の同病検査が強化される一方、牛海綿状脳症対策特別措置法（平成 14 年 6 月 14 日法律第 70 号）により、24 ヶ月齢以上の死亡牛の届出と当該牛の B S E 検査が義務化されました。

#### 1 24 ヶ月齢以上の死亡牛の届出について

当該法律の施行に伴い、**24 ヶ月齢**以上の牛が死亡したときには、その牛を検案した獣医師が都道府県知事に届出することが義務づけられていますが、獣医師による検案を受けていない牛の死体については、所有者が届出することになります。届出は最寄の家畜保健衛生所をお願いします。

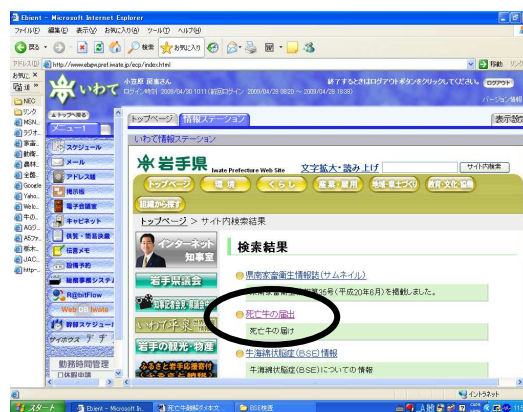
##### （届出事項）

- 1 届出者の氏名及び住所
- 2 牛の死体の所有者の氏名（名称）及び住所
- 3 死亡した牛の性及び月齢（月齢が不明のときは推定月齢）
- 4 牛の死体の所在の場所
- 5 牛が死亡した年月日時及び死亡時の状態等
- 6 その他の参考となるべき事項

### (届出方法)

- 1 届出様式に記入後 FAX
- 2 電子申請

届出様式のダウンロード、電子申請の  
使用方は岩手県のホームページをご覧  
下さい。



## 2 BSE検査の円滑な検査実施について

本県では、同法の施行日である平成15年4月1日から、奥州市の東北油化(株)化製場にある死亡牛の保冷保管施設にて24ヶ月齢以上の死亡牛のBSE検査を実施しており、これまで全ての検査牛の陰性を確認しております。

例年、夏季の気温上昇に伴い、死体が腐敗して適正な検査材料が確保できない個体が散見されており検査に支障をきたしております。昨年度管内では、検査不適とされた事例が**4戸13頭**みられました。不適切な材料では、検査で正しい判定ができない恐れがあります。本検査の意義をご理解いただき、速やかな死亡牛の搬入による確実なBSE検査にご協力願います。

**防疫課 大家畜担当**

## 冬期における牛の飼養管理



牛は比較的低温に強いとされていますが、新生子牛は体温調節機能が弱く、気温13～15℃を下回るとミルクや母乳が体温維持のみに使われ増体が見込めないとされています。県内では、厳冬期に牛舎内気温が氷点下となることが多く、まして15℃以上の舎内温度を確保することは困難です。子牛の良好な発育のために、敷料の増量・すきま風防止・保温ランプ（ヒーター）、牛用ジャケット（毛布で作製できます）等の寒冷対策を実施しましょう。子牛用の寝床（ベット）による腹部の保温も有効な対策です。簡易ベットは、スノコ、バスマット、コンパネ、垂木を用いて作成することができます。

一方、保温に注意をはらうあまり換気が不十分になり、呼吸器病（カゼ）の発生が多くなるのもこの時期です。カゼの一種である牛呼吸器病症候群（BRDC）は、死亡率が高く、回復牛も発育不良に陥る疾病で、経済的被害も大きいことが知られています。BRDCの発生には、気温の急激な変化や低気温によるストレス、アンモニアによ

る呼吸器粘膜の障害が関与します。アンモニアは糞尿から発生しますが、空気より重いため床面に滞留します。体高が低い子牛は、より大きな影響を受けます。換気をする際は、牛体に直接風が当たらないように舎内の空気を動かすことがポイントになります。天井部分に換気通路を設置するトンネル換気も検討しましょう。

呼吸器病が周期的に発生する農場では、前述の対策に加えて、呼吸器病ワクチン接種を検討しましょう。下記（図 2）はワクチンプログラムの 1 例です。多くの呼吸器病ワクチンが市販されていますので、かかりつけの獣医師に相談し、有効なワクチンを選択しましょう。大多数のワクチンは、接種してから効果を発揮するまでの期間が 3~4 週間です（疾病を予防できる十分な抗体を獲得するまでの期間です）。早めの対応により呼吸器病を予防しましょう。

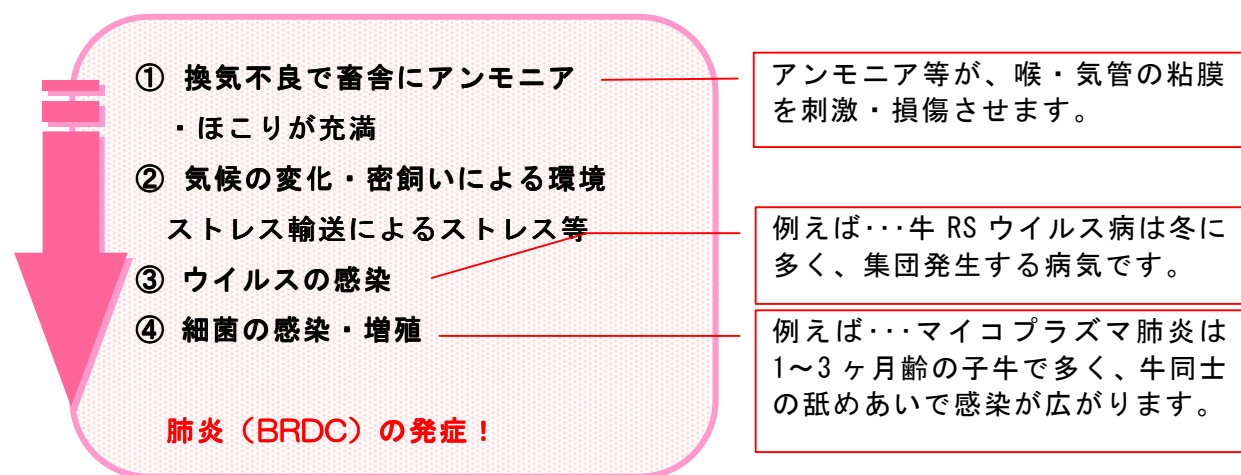


図 1 呼吸器病はなぜおこる

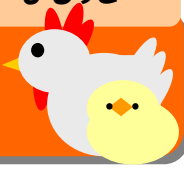
ワクチン	効果	接種方法
・牛 5 種混合 ワクチン ・牛 6 種混合 ワクチン	複数のウイルス感染から子牛を守ります	子牛 生後 1 ヶ月      4~5 ヶ月齢 母牛 種付け前      種付け
・マンヘミア 不活化ワクチン	一番多い細菌感染から子牛を守ります	子牛；生後 1 ヶ月で 1 回接種 (発症時期で投与が異なるので獣医師に要相談)

図 2 呼吸器病ワクチン接種の一例

衛生課 大家畜担当

# 鳥インフルエンザの侵入防止対策は万全ですか？

～いま一度、基本を見直しましょう～



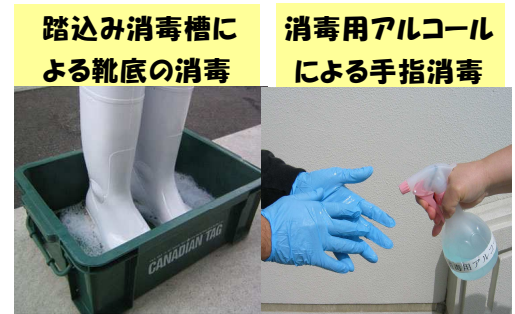
作物の収穫を迎えるこの時期は、渡り鳥が飛来する季節でもあります。養鶏場関係者が気持ちを引き締める時期とも言えるでしょう。

昨年来、新型インフルエンザの世界的な流行や口蹄疫の国内発生などの重大な疾病が相次ぎ、鳥インフルエンザへの社会的関心が薄れがちですが、高病原性鳥インフルエンザが国内や本県に侵入し易い状況に変わりはありません。本病の感染源として、近隣国から国内へ飛来する渡り鳥が疑われています。中国をはじめとするアジア地域で本病がまん延している現状、東北地方に飛来した野鳥の糞 2,446 検体中 25 検体（1%）から H5 および H7 亜型を含むウイルスが分離された北里大学の調査成績は、農場への侵入防止対策が重要であることを県内の養鶏関係者に示しています。

家きん飼養者は飼養規模に関わりなく、下記の基本的な侵入防止対策を再確認し、励行しましょう。

## 1 人や車両による侵入防止

- ・ 外来者を制限し、農場出入り時に車両を消毒する
- ・ 鶏舎出入り時に履物を踏込み消毒槽で消毒する



## 2 野鳥・野生動物による侵入防止

- ・ 鶏舎の開放部を防鳥ネットや金網で覆い（網目が 2cm 角以下）、隙間を塞ぐ
- ・ 鶏舎内外を定期的に点検し、破損箇所は速やかに補修する
- ・ ネズミ駆除および鶏舎周辺への石灰散布を定期的に行う



## 3 飲用水・飼料の汚染による侵入防止

- ・ 新鮮な水を使用し、野鳥の糞による汚染を防止する（水道水以外の水は消毒後に使用する）
- ・ 飼料タンク周囲や飼料倉庫内のこぼれ餌をこまめに除去する（野鳥や野生動物の餌源をなくす）

## 4 鶏舎内外の整理・整頓・清掃

- ・ 鶏舎内を清潔に保つとともに、鶏舎周辺的环境整備（草刈、伐採、不要物の撤去）を励行し、野鳥やネズミなどの生息・繁殖場所を減少させる

## 5 家きんの観察と記録

- ・ 日常の健康観察を強化し、異常が認められた際は担当獣医師や家畜保健衛生所に連絡する
- ・ 家きんの移動状況や死亡羽数、農場に出入りした人・車両を記録する

防疫課 中小家畜担当



# 平成 22 年度採用職員紹介

## 中原秀之獣医師

### ひとこと

県外出身者でまだ動物の扱いも下手ですが、一生懸命努力して岩手県の畜産振興に貢献したいと思います。よろしくお願いします。

### 先輩から

宮崎県で発生した口蹄疫に関する防疫対応では、新採用から間もないにも関わらず活躍してもらっています。これからも経験を積んで、岩手県の畜産振興を担って下さい。

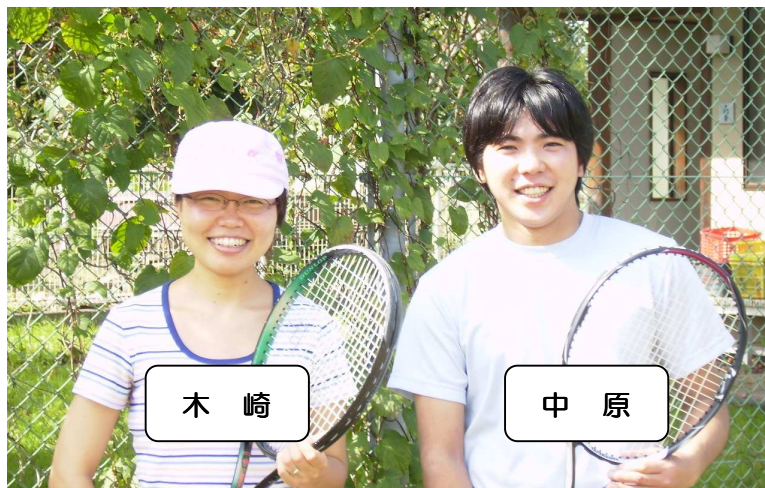
## 木崎あゆみ獣医師

### ひとこと

気がついたら半年たってしまいました。これからは公用車も自分で運転できるようになりますし、ますます頑張りたいと思います。皆様のご指導よろしくお願いします。

### 先輩から

可愛らしく気配り上手に新採用とは思えないほどしっかりしています。実は新婚さんですが私が嫁に欲しいくらいです。旦那様がうらやましい！



## 編集・発行

〒023-0003 岩手県奥州市水沢区佐倉河字東館 41-1

岩手県県南家畜保健衛生所

TEL 0197-23-3531

FAX 0197-23-3593

岩手県南家畜衛生推進協議会

TEL 0197-24-5532

FAX 0197-23-6988